



三崎高校の中にある公営塾、 そこから目指すところ

伊方町地域おこし協力隊

長瀬 智寛



地域おこし協力隊になるまで

大学時代、「幸せって一体なんだろう？」と疑問に思い、幸福に関する本を読みあさり、ネットで調べた。そこでたまたま見つけた「世界一幸福な国フィジー」というフレーズに心躍り、気がつけば、大学を休学しフィジーを訪れていました。世界一幸福な国を訪れば、本やネットには載っていない「幸せ」があるかもしれないという期待にワクワクしたことを今でも忘れられない。「幸せ」とは正解があるわけではないので、定義付けすることができたわけではない。でも間違いなくフィジーには、幸せそうな人（自らを幸せだと感じている人）ばかりで、彼らに囲まれながら過ごしていると自然と自分も幸せな気分になることができるという不思議な国でした。そこで、伊方町に来るまで働きながら暮らしていました。

帰国後、日本で暮らし働きながら、改めて日本の文化や精神について学びたいと思い、日本で仕事を探していたときに、偶然見つけたのが高校魅力化プロジェクトの活動である三崎高校公営塾での仕事でした。私は、愛媛県に何か所縁があったわけではありませんが、高校や地域と連携するプロジェクトの魅力と三崎で働いている人の魅力に惹かれて応募しました。



塾生作成の公営塾の看板

自身の経験から伝えたいこと

ワクワク、つまり自分の興味関心のあふることに取り組んでいるときに、幸福や満足を感じることができます。ワクワク

すれば主体的に行動しようとする。よりたくさん経験の積み、様々な差異に気がつくことができる。それが視野を拡げるための手助けをしてくれる。視野が広がれば、新しい情報や価値観に出会い、選択肢を手に入れることができる。選択肢が増えれば、人生がより豊かになるように選択し、選択に満足できるように行動する努力をすることができる。つまり、ワクワクという各々の感覚から人生は大きく変わるといえることである。

私は多くの人と同じように日本で生まれ育ち、大学生になるまで海外に行ったこともなかった。日本の常識が私の常識であった。日本で生まれたから、日本で仕事を探し、日本で結婚し生活していくと勝手に思い込んでいたが、ワクワクから始まったフィジーでの経験を経て、私の視野は格段に拡がり、たくさんの選択肢を持ち、自分で人生を選択することが出来ることに非常に満足している。

だからこそ、私はワクワクから始まっ